デザインの楽しさ

すいせんのことば

文部省初等中等教育局視学官
新川昭一

今、中学校の美術教育は、ひとつの曲がり角にきている。
どのように、明るく豊かな学校を作り、一人一人を喜ばせ、
どのように確かな自信をもたせるかなどが、
授業展開の大きな課題であろう。
美術の指導で、目の前の中学生一人一人に、
人生における主役意識をもたせたい。
人と人、人と物との出会いの喜びなどを、物づくりで確かめさせたい。
美しく賢く生きる喜びを、デザインの指導で、
どの子にも、どの家庭にも広げたい。
そのデザインとは、人間の願望と思考と体験の上に、
「よくぞ思いついた」との喜びを確かめ、
頑張って懸命に作り上げた物を使うまでの、喜びの歌声であろう。
ちょっといつもの手慣れた授業を変えて、
優れた映画を見せて、生徒の興味・関心を刺激してみたい。
そして、その映画が、本筋の美術教育、デザイン指導を
美しく楽しく巧みに展開してくれたらと思っている先生方は多い。
そのような願いを満足させてくれる映画が、
この桜映画社の文部省特選映画『デザインの楽しさ』だ。
この映画は、全国の美術の先生方に、喜んで迎えられるだろう。
各先生方には、これの活用が貴重な研修のひとときにもなりそうだ。

文部省特選
教育映画祭最優秀作品賞

■企画・製作
株式会社　桜映画社
■協力
[財]日本視聴覚教育協会

記録映画・20分・カラー

■価格
16ミリ:150,000円

■配給

この映画を利用する方々へ

東京都中学校美術教育研究会副会長
西戸山中学校教諭
原田利一郎

〈映画を鑑賞する前にひとこと〉

「デザイン」は、だれでもが身近に知っている言葉です。
それだけに、「考える、作る、使う」デザインの楽しさが見過ごされています。
この映画で、デザインの新しい発見と楽しさに出会ってください。

〈映画の利用の仕方〉

[1] 生徒の学習のために

❶学習の意欲づけに結びつけた見せ方。
「自分にもできそうだ」「あんな方法があったのか」
❷デザイン学習の導入に生かす見せ方。デザインとは何かをとらえさせる。
「標識・絵地図から身近な生活のデザインへ」
❸デザイン指導のまとめとしての見せ方。
「鑑賞後の話題をひき出したり、深めたりする」
❹技法に関心をもたせる見せ方。
「鑑賞前に指導のねらいを決め、ひとつひとつの技法などに注目させる」
❺授業だけでなく、地域の子ども会の文化活動などの指導にも広く活用できる。

[2] PTAや父母の集会のために

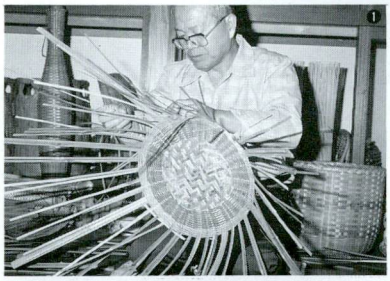
❶学校で行われている美術の授業に、父母の関心を向けてもらう。
❷家庭で、親子で語りあって身近なデザインに目を向け、
美しさにあこがれる心を育てる。

[3] 美術教育の研究会、研修会などのために

日程の中に計画的に組みこみ、短い時間を生かして
効果的に活用できる。

■あらすじ

デザインを工夫した標識や表示、絵地図などは、わかりやすいばかりでなく、見る人を心楽しい気持ちにさせてくれる。映画は、そうした楽しいデザインの例を見て歩くところから始まる。
現代社会の中で、デザインの範囲はますます広がってきている。(ニュータウン)
また、歴史をふり返ってみると、人々がものを作り始めた時から、デザインの心があったことがわかる。(縄文土器)
くらしの道具の中にもデザインの優れたものが多い。それらは長い間、その使い勝手の良さから人々に好まれ、洗練された形になっていった。
二人のデザイナーの工房を訪ね、その仕事ぶりを見ながらデザインの難しさや喜びについて聞く。一人は家具を作る木工工芸家、もう一人は食器など卓上小物のデザイナーである。一品生産と量産の違いはあっても、二人のデザインに対する考えには、共通するところが多い。
貯金箱コンクールに集まった小中学生の作品。それらは自由な発想と手作りの魅力にあふれている。
デザインを工夫し、製作にかかろう。自らの手で作ってみることで、ものを見る目が養われる。そしてそれは調和のとれた明るく豊かな生活を作り出していく。(中学校の授業)



❶人から人へ、手から手へ伝わるデザインの美しさ(竹工芸)
❷量産品のためのデザイン(調味料セット)
❸作った人の得意そうな顔が見えてくるようだ(野弁当)
❹木の性質を生かす技術は職人が工夫して生み出してきた(木工芸)
❺自分でデザインしてみよう(私達の創作)

■対象

⊙中学校美術・教材
⊙高等学校芸術(美術,工芸)・教材
⊙地域社会活動・教材
◔児童館・子ども会等の創作活動
PTA成人講座

■指導

埼玉大学教育学部教授　池辺国彦
埼玉大学教育学部附属中学校教諭　村上博俊

■製作協力

木工工芸家　真田信夫
プロダクト・デザイナー　小松　誠

■スタッフ

製作:村山和雄　編集:沼崎梅子
脚本・監督:花崎哲　解説:武田広
撮影:山屋恵司　音楽:長沢勝俊
照明:水村富雄　録音:伊藤亨

■製作―株式会社**桜映画社**
東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666